

三鷹市立第 中学校 令和5年度【技術・家庭】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>「技術」 ○表面上の知識や情報量が多い半面、実際に工具や機械に触れたり、使ったりした経験は非常に少なく技術力や技能、さらには実生活でそれらをどの場面でのように使ったらいのかを工夫する力は少ない。</p> <p>「家庭」 ○学んだことを、実生活に生かす生徒が少ない。また、体験も多くないので、生活と学習をむすびつける実践が必要である。</p>	<p>「技術」 ○技術や科学技術上の用語やキーワード（専門用語）、工具名や機械の正しい名称がしっかりと記憶されていない。 ○工具や機械の正しい使用法、保守点検法がしっかりと身につけていない。 ○工具や機械を適材適所で使用することが苦手でできない。</p> <p>「家庭」 ○家庭での実体験が少ない生徒が多い。 ○社会的な話題も、全く関心がない生徒も見られるので、幅広い視点での学習が必要である。しかしながら、新しい知識を取り入れようとする姿勢の生徒が多い。</p>	<p>「技術」 ○ワークシートや、プロジェクター等を用いて視覚等で記憶させるようにする。 ○工具や機械の使用については体で覚えていくしかないが、教師側の模範演示等も時間をとって丁寧な指導をする必要がある。</p> <p>「家庭」 ○生徒の実生活に基づいた話題を導入で提示できるよう努めている。その上で、再び授業での学びを日常生活に生かすことができるよう、実践計画を立てることに重きを置くようにする。 ○被服製作では、自己評価シートを用いて、自分自身の気づきや学びを次の学習へとつなげていけるようにする。 ○師範や標本を用いて、目で見て手を動かす力をつける。 ○振り返りは、学習内容を具体的にどのような生活場面で生かせるかを書くことによって、意識の変化があるとする。</p>
第2学年	<p>「技術」 ・インターネット、スマホ等の普及により表面上の知識は豊富であるがそれらは断片的であり、そこからの発展性や実生活での応用や発展性には乏しい。 ・技術科は専門用や特殊な用語が多いがそれらについてしっかりと記憶されていない生徒が多い。</p> <p>「家庭」 ○食生活の分野において、学習した内容がどのように家庭での生活に生かせるかを考えることが必要である。</p>	<p>「技術」 ○技術や科学技術上の用語やキーワード（専門用語）、工具や機械の正しい名称がしっかりと記憶されていない。 ○工具や機械の正しい使用法、保守点検法がしっかりと身につけていない。 ○工具や機械を適材適所で使用することが苦手。</p> <p>「家庭」 ○家庭科は、日常生活で得た知識と関連させることができる生徒が少ない。 ○食生活の学習では、栄養素と様々な症状や病気について、その時にはわかっているつもりでも、確認すると理解していないことが多い。 ○自分の症状と、不足する栄養素を結び付けて考えられる生徒が増えている。 ○師範動画をみて実技練習をしっかりと取り組む生徒が多い。</p>	<p>「技術」 ○ワークシートや、プロジェクター等を用いて視覚等で記憶させるようにする。 ○工具や機械の使用については体で覚えていくしかないが、教師側の模範演示等も時間をとって行い、できるだけマンツーマンで会得させる。</p> <p>「家庭」 ○生徒が様々な場面で得ている情報が、授業のどの部分と結びついているのか具体例を用いながら示していく。 ○授業の振り返りを行いながら、実際の生活のどの場面で生かせるかを具体的に記述させることにより、生活の中での活用場面がイメージできるようになると考える。 ○引き続き、わかりやすい師範動画の作成を進める。</p>
第3学年	<p>「技術」 ・授業で身につけた知識や技能を実際の生活や地域社会の中で具体的に生かしていける前向きな姿勢に乏しい。 ・手や体を使って工具や機械を使いこなすレベルに達している生徒はまだ少ない。</p> <p>「家庭」 ○被服製作では、昨年度の学習内容を踏まえて、応用することができている。また、学習する技能の意味を理解しながら取り組むことができている。</p>	<p>「技術」 ○木材、プラスチック、金属の素材を使う場合は、何をどのように使用したいのかを考慮したうえで材料を決めていく必要があるといふとこまで深く考える生徒は少ない。 ○技術科は今日の地球レベルの環境問題や、資源問題に直結した教科であり、重要性が高いといふことを理解する生徒はまだ少ない。</p> <p>「家庭」 ○被服製作では、型通りのものでなく、自分に合った、自分の望むものを作る力が不足している。 ○計画的に作業を進めるための時間配分ができない。 ○基礎的な補修方法は、身につけている生徒とそうでない生徒の差が大きい。</p>	<p>「技術」 ○木材、プラスチック、金属の実物を見せながら、それぞれを比較することで、特徴や長所、欠点を考えさせる。 ○実際の社会や地域で使用されている機械、車、工具等が何の素材で作られており、どうしてその素材が使用されているのかをワークシート等で理解させる。 ○エネルギーは熱や、電気といった様々な形態をとることが可能であり、その変換の際に大きなエネルギーロスが起こることも知らせる。エネルギーの有効利用が地球温暖化、地球環境の悪化を防ぐことになることをしっかりと理解させる。</p> <p>「家庭」 ○作品を製作する際に、製作計画表などを用い、自分なりの製作目的をはっきりさせることと、作業の計画を立てられるようにする。 ○道具の活用は小単位での師範を行い、身に付けさせる。 ○実技試験を行う前に、十分な個別指導をして、改善点を伝える。</p>